

親父たちに感謝

Appreciating Our Fathers

専務取締役

西土井 敏

Satoshi Nishidoi



春4月。今年も希望に満ちた多くの新入社員の人達を迎えました。自分が入社した時期を思い浮かべながら、約40年間の事務屋としての会社生活を振り返り、若い技術者に向けて思いを書き綴ってみた。

思い浮かべてみるに戦争に負けた我々の「親父達」が焼け尽くされた日本を建て直して、経済力で欧米に「追いつき、追い越そう」という夢と、我々世代も欧米のかっこよい車、TV、冷蔵庫、クーラー付きの綺麗な家にあこがれ、親父たちと同じ夢をもって働いてきた。

戦後しばらくは繊維産業を中心にして低コストを武器に欧米への輸出で国内経済は徐々に立ち上がり、東京オリンピック、大阪万博などを経て欧米に追いつきバブル崩壊まで、日本は破竹の勢いだった。勢いの原動力は技術開発力と高品質な物づくりでありました。

40年前の1965年、GM / トヨタの各々の生産台数は3,500千台 / 500千台でトヨタはGMの僅か1 / 7であった。一方、IBM / 富士通の売上高で比べると富士通はIBMの5%以下の規模であった。トヨタはGMを、富士通はIBMを目標にした時期であります。

40年の間に多くの発明、発見と共に新商品の誕生が色々な生活を変えてきた。私の会社生活で印象深いのは、悪戦苦闘のソロバンに変わり今や、100円SHOPで電卓が手に入る。また、社内業務のシステム開発をしていた頃の大型電子計算機（メインフレーム）の機能が今や、机上のパソコンでより短時間でできる。そして、20年前に、ショルダーバッグ並の大きさであった携帯電話が今や、胸ポケットに入っている。いずれも小型で高機能化を実現した製品である。大昔の真空管からLSIへと電子部品が超小型化し高機能化と共に低価格

によって、日本発の製品開発が大いに加速し、欧米並みの生活レベルを手に入れることができた。これらの技術開発が進み日本経済を大いに発展させたことは言うまでもなく、トヨタも富士通もその勢いで伸びてきた。

2004年、GM / トヨタの生産台数は9,100千台 / 7,550千台となりトヨタはGMのすぐ足元にせまりGMを追い越すのは目の前という勢いです。また、IBM / 富士通の売上高比較では富士通はIBMの2 / 3に迫っている。まさに執念というか、高い志を我々世代に与えてくれた「戦争に負けた親父達」に感謝している。

“夢は志を生み、志はやる気を引き出して行動を促し、行動は結果をもたらす。その結果、また新しい夢の芽がうまれる。”

「元岐阜県知事 梶原 拓氏」

ほんとにその通りであると痛感している。

富士通テンの前進である「神戸工業」は優秀な技術屋がたくさんいた事は有名である。ノーベル賞をもらった江崎玲於奈氏が若かりし頃従業員の一人として当時の受信管の開発に携わり、「トンネルダイオード」の基礎を作ったのは有名である。富士通テンとなってから車載用オーディオ、自動車制御の開発を軸として多くの開発を進め、最近ではオーディオ、ビジュアル、ナビを一体化させたAVNの開発は世界初。多くの技術者が育つ土壌が富士通テンにはあります。今年入った新入社員も含め先輩達に負けない技術開発とモノづくりに向けてしっかり取り組み、高い志と夢の実現に向け皆でがんばりましょう。